



日本プラスターの
色漆喰
Cal Nouveau[®]
カルヌーヴォ

施工要領書

【改定】2024 年 5 月

※本要領書の内容は、断りなく変更することがありますので、ご了承ください。

Best Walls, Best Life

しっくいと共に

日本プラスター株式会社

施工前に必ずお読みください。

① カルヌーヴォは、93色の漆喰です

カルヌーヴォは、93色からお好みのカラーを選ぶことができます。カルヌーヴォのカタログからお選びください。

② カルヌーヴォは、3タイプあります

カルヌーヴォは、3タイプからお好みのタイプを選ぶことができます。3タイプいずれも、93色あります。発注の際は、カラーとタイプをご指定ください。

- ラフタイプ** 粗い天然石が多く含まれており、立体感のあるパターン仕上げや厚塗り仕上げができます。
- ソフトタイプ** 標準タイプ。細かい天然石を使用し、平滑な金鏝押さえからソフトなパターン仕上げまで、幅広い仕上げができます。
- ミルクタイプ** 天然石が一切含まれておらず、乳肌のようにきめ細かい仕上がりになります。

③ カルヌーヴォは、パウダーとカラーを混ぜます

カルヌーヴォは、カルヌーヴォ・パウダーとカルヌーヴォ・カラーを混ぜて使用します。

④ カルヌーヴォは、内壁仕様と外壁仕様があります。

外壁に使用する場合は、「外壁仕様」をご指定ください(外壁仕様は専用の外部用添加剤が別途必要です)。外壁仕様の指定がない場合は、「内壁仕様」とさせていただきます。

1. 使用材料

【 使用材料 】

使用材料	荷姿	適用部位	標準塗り厚	施工面積
カルヌーヴォ・ラフタイプ	9kg ポリ袋	内壁・外壁※ (※外部用添加剤が必要)	約 2.0mm	3.5 m ² /袋
カルヌーヴォ・ソフトタイプ	5.5kg ポリ袋	内壁・外壁※ (※外部用添加剤が必要)	約 1.0mm	5 m ² /袋
カルヌーヴォ・ミルクタイプ	5.5kg ポリ袋	内壁・外壁※ (※外部用添加剤が必要)	約 1.0mm	5 m ² /袋

使用材料	荷姿	用途
液体顔料	500ml プラスチック瓶	カルヌーヴォの着色用
外部用添加剤	1ℓプラスチック瓶 (液体顔料含む)	外壁施工時の添加剤

使用材料	荷姿	適用部位	標準塗り厚	施工面積
マルチベース	20kg 紙袋	内壁	約 1.5 mm	約 12 m ² /袋
ハンディベース	18kg プラ缶	内・外壁※	約 1 mm	14 m ² /缶
漆喰くるむ 専用ベース材	20kg 紙袋	内・外壁	1～2 mm	約 10 m ² /袋 (1.5 mm厚)

※外壁は雨掛かりのない部位に限る。

使用材料	荷姿	用途
ウルトラナノ浸透プライマー	14kg プラ缶 または 4kg ポリ缶	浸透型表面強化剤 兼 アク止め剤

使用材料	荷姿	調合比率※3 倍希釈の場合
NP シーラック (吸水調整材)	18 kg 金属ペール缶	原液 : 清水 1 : 2 (18 kg) (約 36 ℓ)

2. せっこうボード下地のつくり方

● ボードの選定

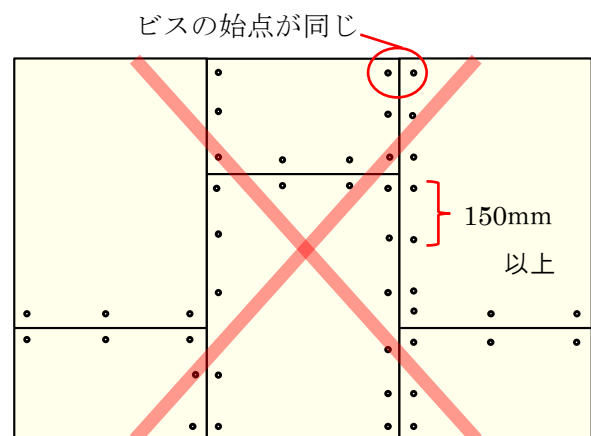
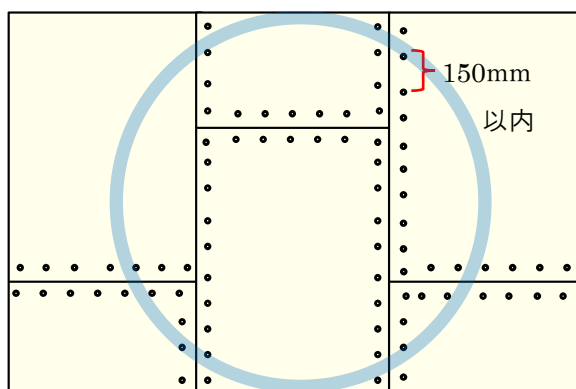
・ボードの厚みは 12.5mm を推奨します。9.5mm 厚の場合、ボードの歪みによるひび割れが発生する恐れがあります。

ボードの種類	推奨	形状	備考
テーパーエッジボード	◎		ボード同士の密着性がより強い
ベベルエッジボード	○		ボード同士の密着性が強い
スクエアエッジボード	△		ボード同士の密着性が弱い ひび割れが発生しやすい

● ボードの貼り方・ビス留めの間隔

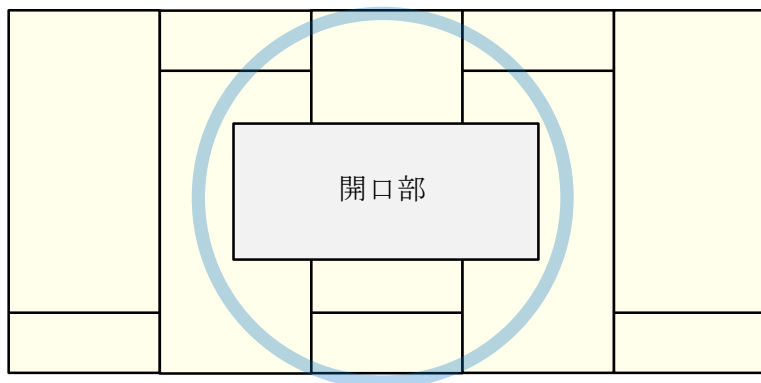
・より割れにくい下地にするには、二重張りを推奨します。二重張りとする場合は、必ず下張りのせっこうボードとジョイント位置をずらし、接着材を全面に塗り付け、ステープル等で固定してください。

- ・柱、間柱の間隔は 455mm を基本としてください。
- ・ビスの間隔は 150mm を基本としてください。
- ・ビスの長さは、ボードの厚みの 2.5～3 倍としてください。
- ・ビスの始点が同じにならないようにしてください。
- ・直張り工法(ダンゴ貼り)による、せっこうボード下地はお薦めできません。

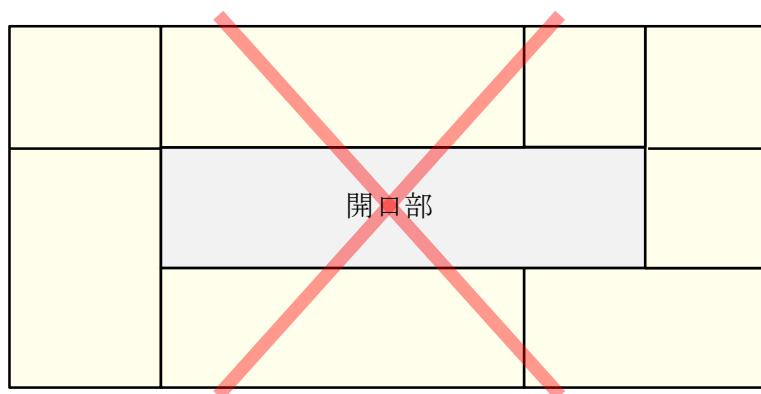


● 開口部周りの処理方法

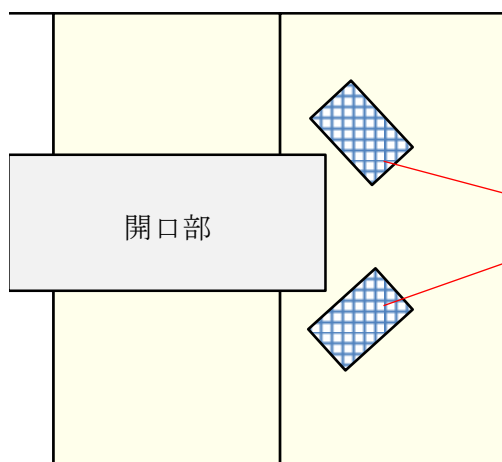
- ・ ひび割れ防止のため、開口部の角にボードのジョイント部を設けないでください。
- ・ 開口部の周りにファイバーテープを貼り補強してください。



ボードのジョイント部を窓やドアの角に設けない。

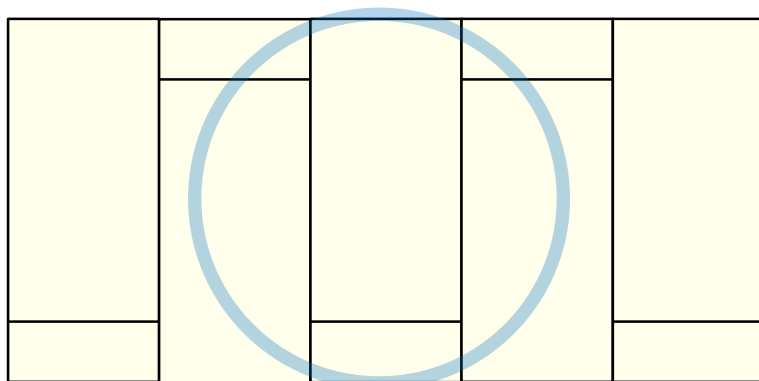


ボードのジョイント部が窓やドアの延長線にある場合、振動等でひび割れが発生しやすい。



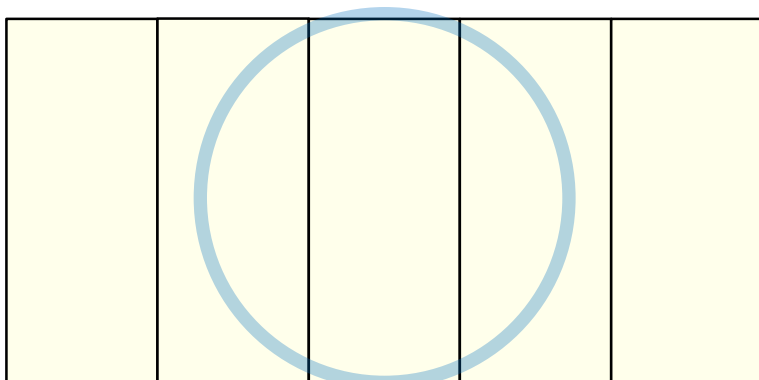
ファイバーテープを貼って
開口部周辺を補強する

● 塗り壁に適したジョイントのつくり方



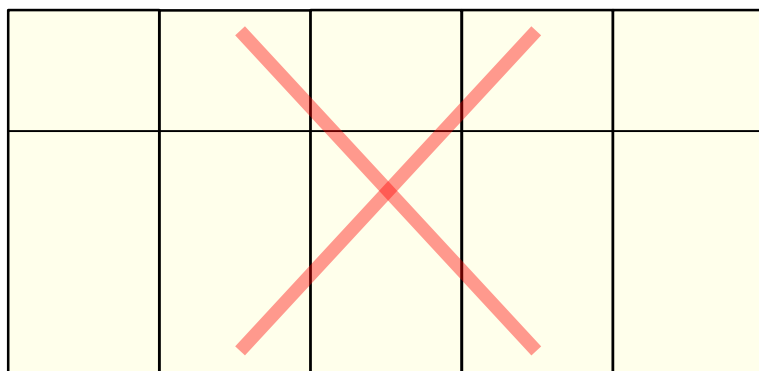
千鳥貼りすることでボードの継ぎ目に横目地が通らずひび割れしにくい。

床面



3×8 ボードを貼り、横目地をなくすことでひび割れを防ぐ。

床面

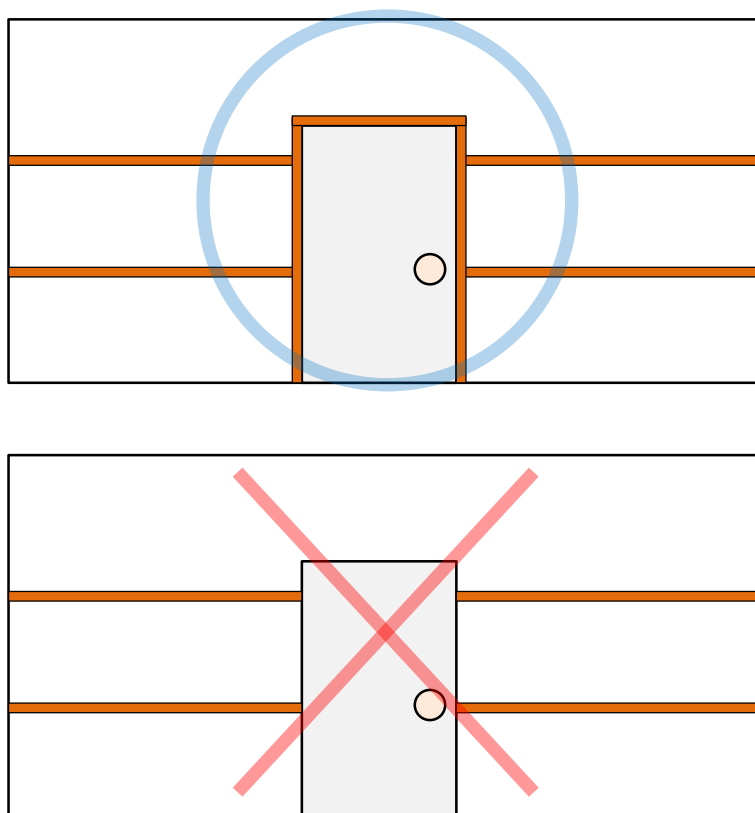


縦、横に目地が入ると動きやすく、ひび割れしやすくなる。

床面

● 受け木を設ける

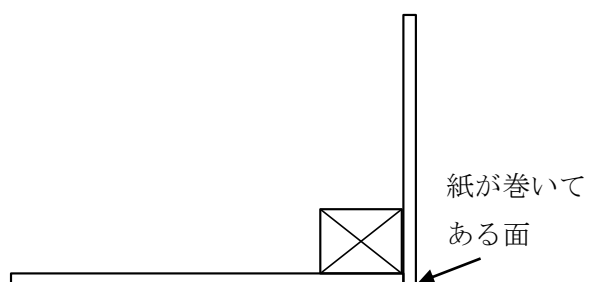
・窓やドアの周辺には受け木を設けてください。ボードが固定され、ひび割れを防ぎやすくなります。



● 出隅・入隅のつくり方

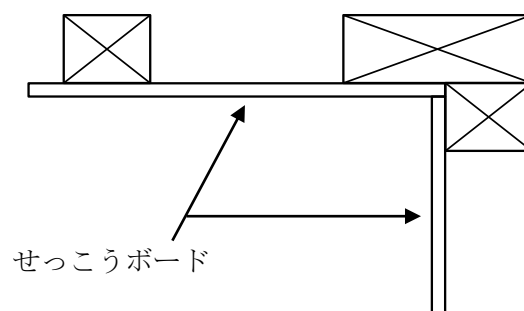
【出隅】

・出隅はボードの切断面が出ないように紙が巻いてある面を使用してください。
・やむを得ずボードの切断面が露出する場合は、事前に NP シーラック 3 倍液を塗布・乾燥させてください。



【入隅】

・入隅は木下地で補強してください。



3. せっこうボード下地の施工方法

せっこうボード下地に適用する際の施工フローを図1に示す。

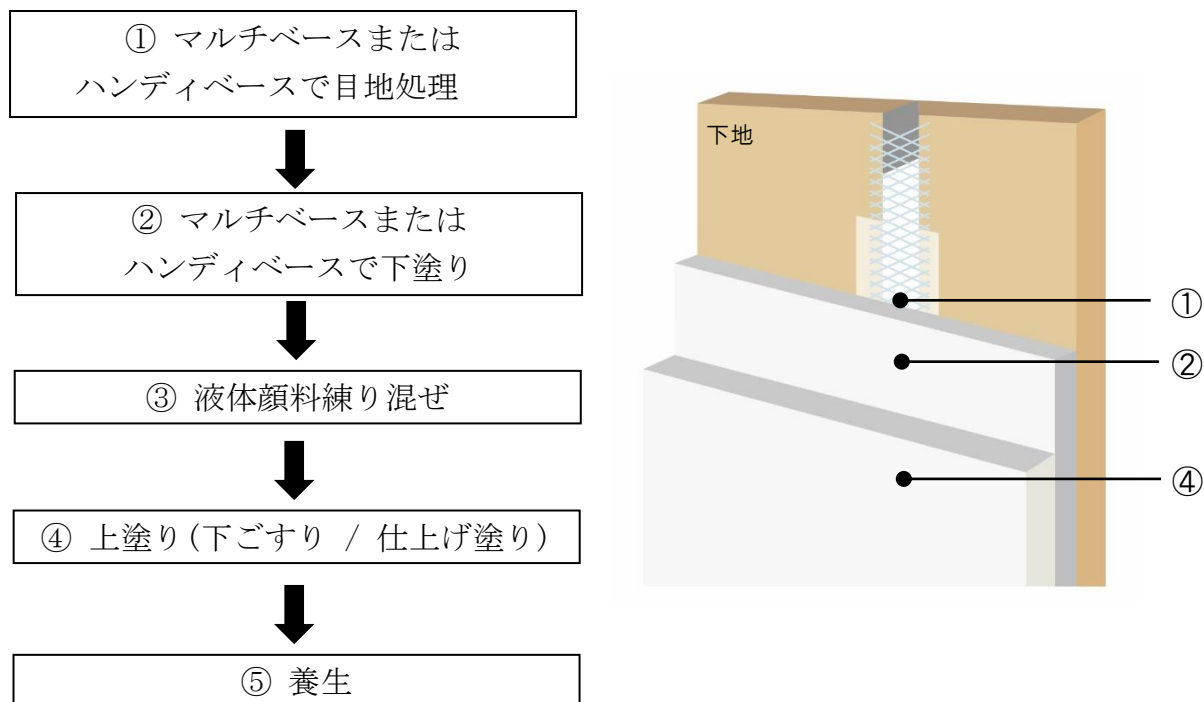


図1. せっこうボード下地の施工フローおよび構成図

※ 事前の確認

せっこうボードの貼り方が万全でないと、継ぎ目からひび割れが発生する恐れがあるため、ボードが正しく貼られているか事前に確認してください。また、表面のほこり・汚れ等を除去し、健全な下地としてください。

① マルチベースまたはハンディベースで目地処理

マルチベースを使用する場合は、**マルチベース 1 袋(20kg)** に対して **清水 6.5ℓ(固練りの水量)** を入れ、ハンドミキサーで3分以上十分に攪拌してください。ハンディベースは攪拌不要です。

せっこうボードの継ぎ目部にマルチベースまたはハンディベースをしっかり埋め込み、ファイバーテープを貼り付けてください(※スクエアエッジボードでは、埋め込みは不要です)。さらに、その上にマルチベースまたはハンディベースをこすり付けるように塗り付け、ファイバーテープとなじませてください。このとき、継ぎ目部が盛り上がらないよう、余分な材料は取り除いてください。

また、せっこうボードに打ち込んだ釘頭にも、マルチベースまたはハンディベースをこすり付けるように塗り付けてください。

目地処理から2時間以上空けてから下塗りを行ってください。

② マルチベースまたはハンディベースで下塗り

マルチベースを使用する場合は、**マルチベース 1 袋(20kg)** に対して **清水 7.5ℓ** を入れ、ハンドミキサーで 3 分以上十分に攪拌してください。ハンディベースは攪拌不要です。

マルチベースまたはハンディベースで下ごすりを行い、追っかけで所定の塗り厚まで塗り付けてください。その後、水引きを見て金ゴテで平滑に押さえてください。

下塗りが完全に乾いたことを確認後、仕上げ材による上塗りを行ってください。

③ 液体顔料の練り混ぜ

カルヌーヴォ 1 袋に対して液体顔料 1 本と所定の水量(ラフタイプ:2.8ℓ、ソフトタイプ:3.1ℓ、ミルクタイプ: 4.0ℓ)を入れ、ハンドミキサーで 3 分以上攪拌してください。液体顔料が均一に混ざるように、万遍なく攪拌してください。

※ 練り混ぜは液体顔料と所定の水量を先に混ぜてから、カルヌーヴォ粉体を練り混ぜるようにしてください。

※ 金鏝押えのできるソフトタイプ・ミルクタイプについては練り置きが可能です。練り置きをしておくと材料と水がなじみ、一段と塗りやすい壁になります。練り置きの場合は、前日までにあらかじめ所定量より 10%ほど少ない量の水を混ぜておいてください。その上で、施工当日に残りの水とカラーを練り混ぜてください。ラフタイプにつきましては、練り置きはせず施工当日に練り混ぜをしてください。

④ 上塗り(下ごすり / 仕上げ塗り)

練り混ぜしたカルヌーヴォで下ごすりを行った後、水引きを見て仕上げ塗りを行ってください。また、必要に応じて、押さえやパターン付けを行ってください。

※ ミルクタイプを使用する際は、必ず中塗りとしてソフトタイプで一度平滑にした後、水引きを見てミルクタイプを塗り仕上げてください。

⑤ 養生

施工後は、窓を開けるなど、できるだけ通風に心がけてください。扇風機等を回すと乾燥が促進され、乾燥の遅い場合に有効です。

※ 施工後、強い風を塗膜に直接当てると、ひび割れが発生しやすくなるので注意してください。

4. 合板下地の施工方法

合板下地に適用する際の施工フローを図2に示す。

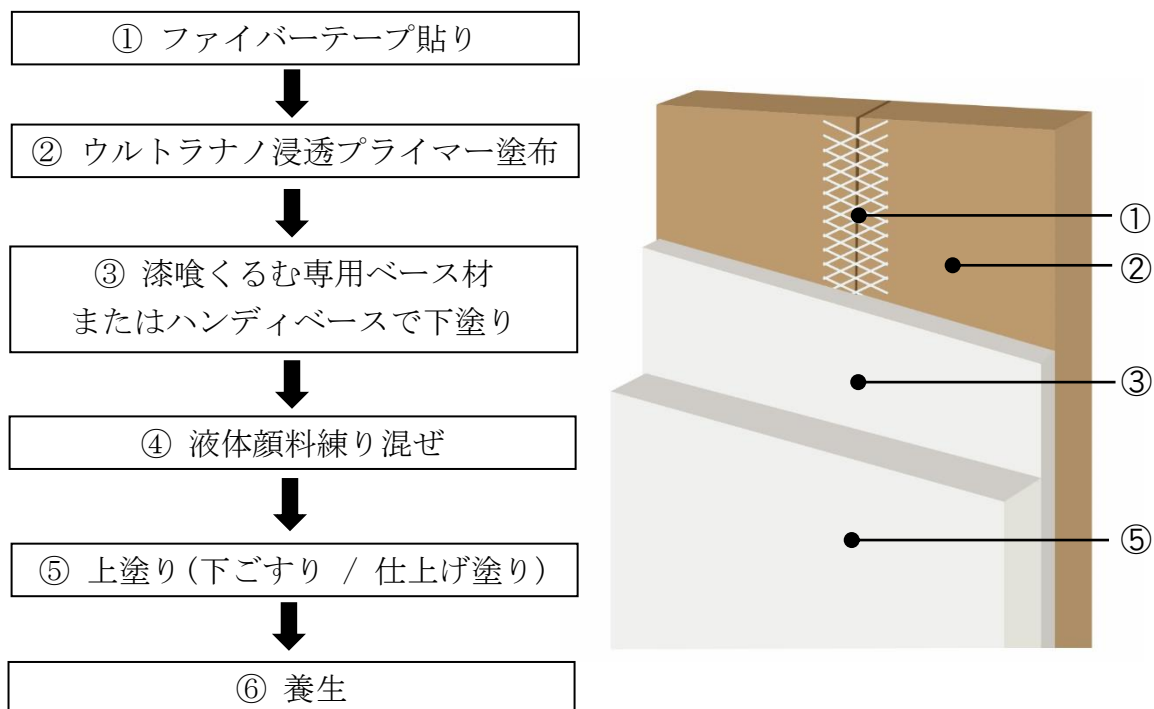


図2. 合板下地の施工フローおよび構成図

※ 事前の確認

合板の貼りが万全でないと、継ぎ目からひび割れが発生する恐れがあるため、合板が正しく貼られているか事前に確認してください。また、表面のほこり・汚れ等を除去し、健全な下地としてください。

① ファイバーテープ貼り

合板の継ぎ目にファイバーテープを貼り付けてください。

② ウルトラナノ浸透プライマー塗布

ウルトラナノ浸透プライマーを原液のまま、刷毛やローラー等で下地面全面にムラなく塗布し乾燥させてください。※アク止めを目的としている為、必ず2回塗布して下さい。(合板の種類によっては3回塗布が必要な場合があります。)

③ 漆喰くるむ専用ベース材またはハンディベースで下塗り

漆喰くるむ専用ベース材を使用する場合は、所定量の清水を混入し、ハンドミキサー(回転数1,000rpm以上)等を用いて3分以上均一に練り混ぜてください。混練材料は加水後、夏期40分、冬期60分以内に使用し、練り足しおよび水を加えての練り戻しは行わないでください。ハンディベースは攪拌不要です。

漆喰くるむ専用ベース材またはハンディベースで下ごすりをを行い、追っかけで所定の塗り厚まで塗り付けて平滑にしてください。

下塗りが完全に乾いたことを確認後、仕上げ材による上塗りを行ってください。

④ 液体顔料の練り混ぜ

カルヌーヴォ 1 袋に対して液体顔料 1 本と所定の水量(ラフタイプ:2.8ℓ、ソフトタイプ:3.1ℓ、ミルクタイプ: 4.0ℓ)を入れ、ハンドミキサーで 3 分以上攪拌してください。液体顔料が均一に混ざるように、万遍なく攪拌してください。

※ 練り混ぜは液体顔料と所定の水量を先に混ぜてから、カルヌーヴォ粉体を練り混ぜるようにしてください。

※ 金鏝押えのできるソフトタイプ・ミルクタイプについては練り置きが可能です。練り置きをしておくと材料と水がなじみ、一段と塗りやすい壁になります。練り置きの場合は、前日までにあらかじめ所定量より 10%ほど少ない量の水を混ぜておいてください。その上で、施工当日に残りの水とカラーを練り混ぜてください。ラフタイプにつきましては、練り置きはせず施工当日に練り混ぜをしてください。

⑤ 上塗り(下ごすり / 仕上げ塗り)

練り混ぜしたカルヌーヴォで下ごすりを行った後、水引きを見て仕上げ塗りを行ってください。また、必要に応じて、押さえやパターン付けを行ってください。

※ ミルクタイプを使用する際は、必ず中塗りとしてソフトタイプで一度平滑にした後、水引きを見てミルクタイプを塗り仕上げてください。

⑥ 養生

施工後は、窓を開けるなど、できるだけ通風に心がけてください。扇風機等を回すと乾燥が促進され、乾燥の遅い場合に有効です。

※ 施工後、強い風を塗膜に直接当てると、ひび割れが発生しやすくなるので注意してください。

5. 出隅・入隅の施工方法

せっこうボードおよび合板下地の場合の出隅・入隅に適用する際の施工フローを図3に示す。

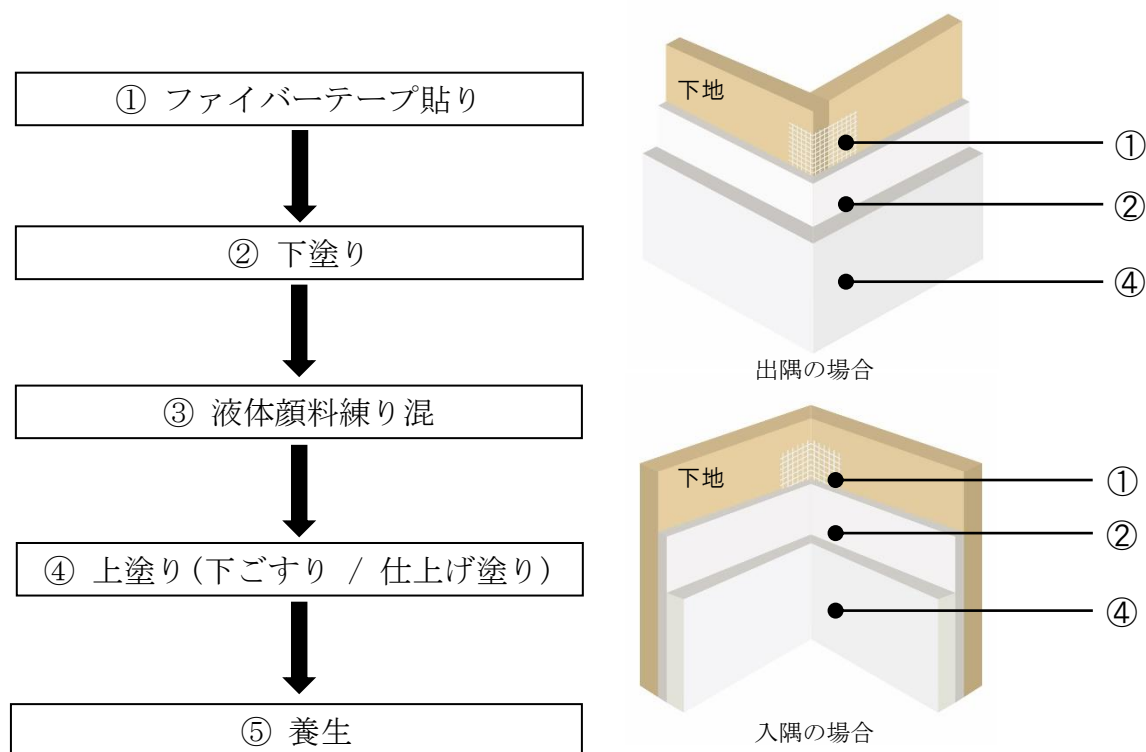


図3. 出隅・入隅の施工フローおよび構成図

※ 事前の確認

せっこうボードまたは合板表面のほこり・汚れ等を除去し、健全な下地としてください。出隅等でせっこうボードの切断面が露出した場合は、NP シーラック 3 倍液を塗布して乾燥させてください。

① ファイバーテープ貼り

せっこうボードまたは合板の出隅・入隅にファイバーテープを貼り付けてください。

② 下塗り

せっこうボード下地の場合は、マルチベース または ハンディベースで下塗りを行ってください。合板下地の場合は、漆喰くるむ専用ベース材 または ハンディベースで下塗りを行ってください。

※ 合板下地の場合、ウルトラナノ浸透プライマーを原液のまま、刷毛やローラー等で下地面全面にムラなく塗布し乾燥させてください。アク止めを目的としている為、必ず2回塗布して下さい。(合板の種類によっては3回塗布が必要な場合があります。)

③ 液体顔料の練り混ぜ

カルヌーヴォ 1 袋に対して液体顔料 1 本と所定の水量(ラフタイプ:2.8ℓ、ソフトタイプ:3.1ℓ、ミルクタイプ: 4.0ℓ)を入れ、ハンドミキサーで 3 分以上攪拌してください。液体顔料が均一に混ざるように、万遍なく攪拌してください。

※ 練り混ぜは液体顔料と所定の水量を先に混ぜてから、カルヌーヴォ粉体を練り混ぜるようにしてください。

※ 金鏝押えのできるソフトタイプ・ミルクタイプについては練り置きが可能です。練り置きをしておくと材料と水がなじみ、一段と塗りやすい壁になります。練り置きの場合は、前日までにあらかじめ所定量より 10%ほど少ない量の水を混ぜておいてください。その上で、施工当日に残りの水とカラーを練り混ぜてください。ラフタイプにつきましては、練り置きはせず施工当日に練り混ぜをしてください。

④ 上塗り(下ごすり / 仕上げ塗り)

練り混ぜしたカルヌーヴォで下ごすりを行った後、水引きを見て仕上げ塗りを行ってください。また、必要に応じて、押さえやパターン付けを行ってください。

※ ミルクタイプを使用する際は、必ず中塗りとしてソフトタイプで一度平滑にした後、水引きを見てミルクタイプを塗り仕上げてください。

⑤ 養生

施工後は、窓を開けるなど、できるだけ通風に心がけてください。扇風機等を回すと乾燥が促進され、乾燥の遅い場合に有効です。

※施工後、強い風を塗膜に直接当てると、ひび割れが発生しやすくなるので注意してください。

6. 外壁での施工方法

外壁で使える条件は、「しっかりとした軒の出のある、直接雨掛かりのない壁面」に限ります。軒の出のない壁面や軒天への施工は、耐久性に優れる弊社漆喰製品「漆喰くるむ 外・漆喰くるむ 外鰻押さえ」をご使用ください。

外壁使用の場合、濃色（カラーNo.末尾 3 以上）は白華（白く変色したり、極端な色ムラが起きる現象）の恐れがありますので、使用しないでください。

モルタル、コンクリート下地に適用する場合の施工フローを図 4 に示す。

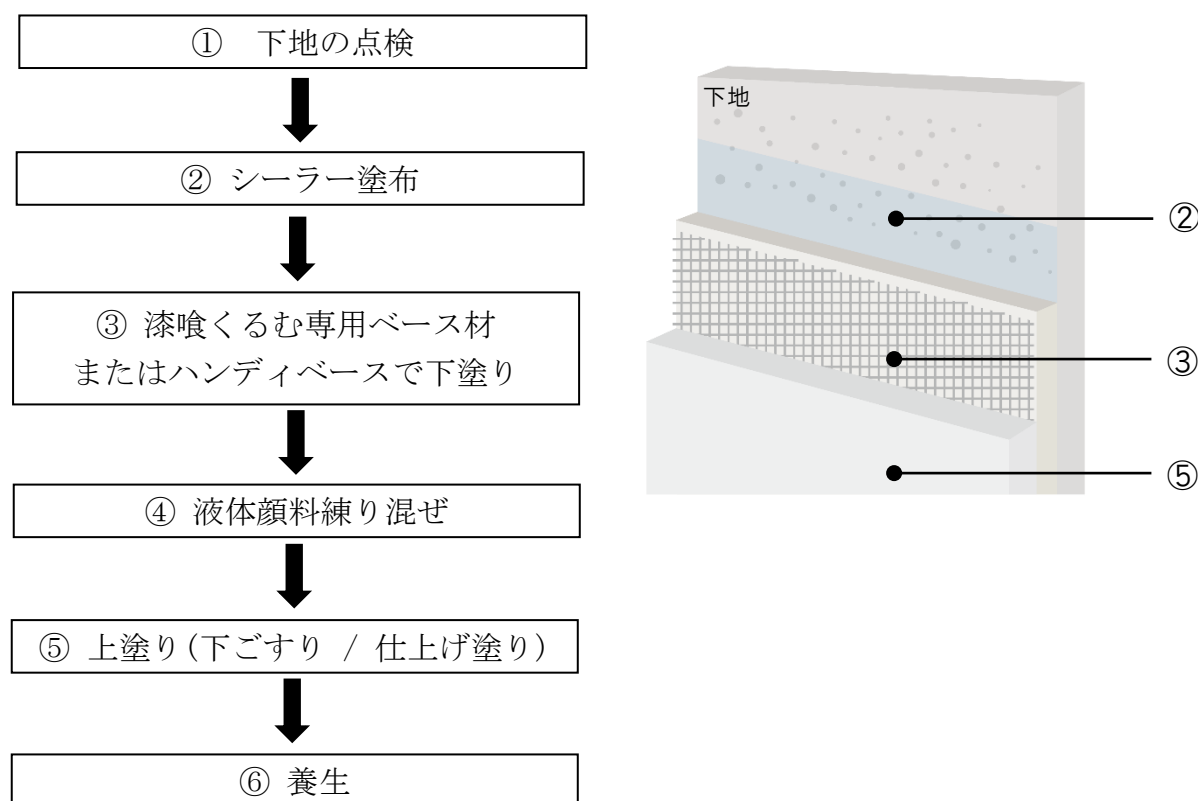


図 4. モルタル、コンクリート下地の施工フローおよび構成図

① 下地の点検

脆弱部、レイトンス、汚れ等を入念に除去し、健全な下地状態としてください。

② シーラー塗布

NP シーラック 3 倍液を刷毛等で下地面全面にムラなく塗布し乾燥させてください。

③ 漆喰くるむ専用ベース材またはハンディベースで下塗り

漆喰くるむ専用ベース材を使用する場合は、所定量の清水を混入し、ハンドミキサー(回転数 1,000rpm 以上)等を用いて 3 分以上均一に練り混ぜてください。混練材料は加水後、夏期 40 分、冬期 60 分以内に使用し、練り足しおよび水を加えての練り戻しは行わないでください。ハンディベースは攪拌不要です。

漆喰くるむ専用ベース材またはハンディベースで下ごすりを行い、追っかけで所定の塗り厚まで塗り付けて平滑にしてください。

下塗りが完全に乾いたことを確認後、仕上げ材による上塗りを行ってください。

※ 漆喰くるむ専用ベース材については、次工程に進む前に NP シーラック 3 倍希釈液を刷毛やローラーでムラなく塗布してください。塗布した NP シーラックの色が乳白色から透明になるまで乾燥させてから次工程に進んでください。

④ 液体顔料の練り混ぜ

カルヌーヴォ 1 袋に対して液体顔料 1 本と所定の水量より 0.5ℓ 少ない清水を入れ、ハンドミキサーで 3 分以上攪拌してください。液体顔料が均一に混ざるように、万遍なく攪拌してください。

※ 練り混ぜは液体顔料と所定の水量を先に混ぜてから、カルヌーヴォ粉体を練り混ぜるようにしてください。

※ 金鋏押えのできるソフトタイプ・ミルクタイプについては練り置きが可能です。練り置きをしておくと材料と水がなじみ、一段と塗りやすい壁になります。練り置きの場合は、前日までにあらかじめ所定量より 10%ほど少ない量の水を混ぜておいてください。その上で、施工当日に残りの水とカラーを練り混ぜてください。ラフタイプにつきましては、練り置きはせず施工当日に練り混ぜをしてください。

⑤ 上塗り(下ごすり / 仕上げ塗り)

練り混ぜしたカルヌーヴォで下ごすりを行った後、水引きを見て仕上げ塗りを行ってください。また、必要に応じて、押さえやパターン付けを行ってください。

※ ミルクタイプを使用する際は、必ず中塗りとしてソフトタイプで一度平滑にした後、水引きを見てミルクタイプを塗り仕上げてください。

⑥ 養生

施工後は強い風や直射日光による塗り付け面の急激な乾燥を防止するため、シート養生等を行ってください。特に、施工後の塗り付け面に強い風が当たる場合は、ひび割れが発生する恐れがあるため、万全の養生を心掛けてください。

7. 仕上げパターン例

● ラフタイプ

【 石肌仕上げ 】

ラフタイプを塗り付けた後、すぐにスタイロフォームで表面を荒らし、さらに表面にできた筋を消すように金鋺で平滑に押えていきます。シックな石壁調平滑仕上げです。



【 木鋺仕上げ 】

ラフタイプを塗り付け、表面をさわったときに多少材料が手に付く程度の乾き具合で、スタイロフォーム・木鋺を使い表面をぐるぐる廻すイメージで掻いてパターン付けし、表面を金鋺で押えます。最もポピュラーなパターン仕上げです。



【 藁入り 】

ラフタイプにアク抜きした藁を添加し、ゴム鋺で塗り付けた土壁イメージです。また、最初から添加せずに、表面に藁を散らし、軽く押える藁入りパターンもできます。

【 木鋺櫛引仕上げ 】

ラフタイプをスタイロフォームで櫛を引くように一方向にパターン付けし、適度にヘッドカットします。灯りによる陰影が際立つ、ダイナミックな仕上がりです。

【 ランダム 2 色荒らし 】

2 色のラフタイプを並べて鋺板に並べてのせ、ランダムに塗り付けます。その後、金鋺で表面を揉むことにより、彩りの際立つマーブル調仕上げになります。

【 着色仕上げ 】

白色 (C・W11) のラフタイプを木鋺仕上げし、翌日カルヌーヴォのカラーのみを 4 倍に希釈し、刷毛・ローラで全面に塗布し、水を含ませたブラシで表面を軽くこすりグランデーションをつけます。色の濃淡と深みのあるやわらかい仕上がりになります。

● ソフトタイプ

【 塗りっ放し仕上げ 】

ソフトタイプを金鏝で平滑に塗り付けた仕上げです。最初下地に密着するよう薄く塗り付け、乾燥後再び平滑に塗り付けます（2回塗りが基本）。素朴な仕上がりです。



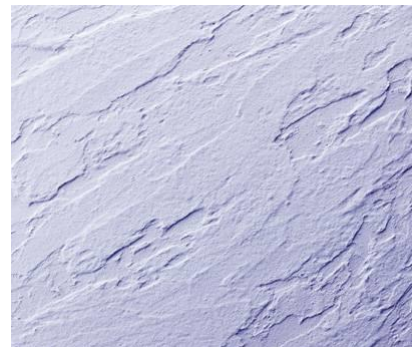
【 押さえ仕上げ 】

ソフトタイプを金鏝で塗り付け、平滑に押えた仕上げです。これがカルヌーヴォのスタンダード仕上げです。塗りっ放し仕上げの要領で塗り付けた後、更に材料が手に付かなくなるタイミングで鏝で押えます。（水引き具合に差があると色むらが発生します。）



【 岩肌仕上げ 】

ソフトタイプを全面に塗り付けた上に、もう一度ソフトタイプをランダムに塗り付けます（鏝を壁面と平行にして軽く擦る塗り方）。その際、2~3割程度下塗り面を残し、岩肌調に厚み・立体感をもたせます。石貼りのような柔らかい陰影のある仕上がりになります。意匠的にコテむら（コテすじ）を出すことを望まれる場合は、無方向性（ななめ等）に押えると、コテすじと石目がわずかに出てナチュラルな趣きになります。



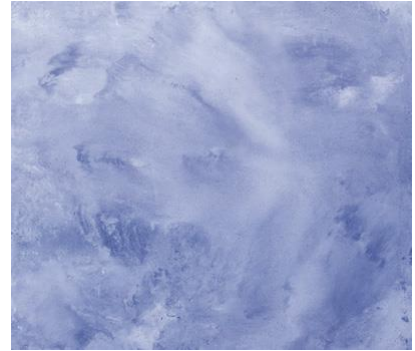
【 藁入り 】

ソフトタイプにアク抜きした藁を添加し、ゴム鏝で塗り付けた土壁イメージです。また、最初から添加せずに、表面に藁を散らし、軽く押える藁入りパターンもできます。



【 平滑 2 色塗り 】

ベースとなる色を一度平滑に塗ります。鋳板にベースとなる色をやや多めにし、2 色を混ぜずに平行にのせ、扇模様を描くように塗り重ねてマーブル模様に仕上げます。手に材料が付かなくなるタイミングで鋳で押えます。イタリアの匂いのする高級感のある壁になります。



【 着色仕上げ 】

白色（C-W11）のソフトタイプを岩肌仕上げし、翌日カルヌーヴォのカラーのみを 4 倍に希釈し、刷毛で全面に塗り付け、水を含ませたスポンジで表面をふき取るようにしグランデーションをつけます。色の濃淡と深みのある仕上がりになります。

● ミルクタイプ

【 押さえ仕上げ 】

ミルクタイプは、乳肌のような、きめ細かい平滑な壁面をつくりあげます。ミルクタイプの上塗り材料が手につかなくなったタイミングで、同じ方向に 1~2 回程度（それ以上押えると、ツヤが出ます。）鋳押えします。骨材や繊維がまったく見えない、輝きのある平滑な仕上がりになります。



【 磨き模様仕上げ 】

ミルクタイプを塗り付け、表面が白く乾いてきたらパターン付けを行います。同じミルクタイプに 10%加水(容量比)した材料を別に作り、金ヘラでランダムに薄くパターン付けしていきます。手に材料が付かない程度に乾いたら鋳押えを 2~3 回力をいれて行います。その後もう一度同様にパターン付けし、鋳押えを先程より多く行い光沢を出します。このとき、ステンレス鋳を使用しますと、より光沢が出易くなります。

8. メンテナンス方法

ヘアークラックが発生した場合	
【 簡単な補修方法 】 ヘアークラックが発生した箇所の周辺を、布やすり (#180 程度) で、円を描くように軽くこすってください。 ※ こすった部分の表面は、平らになり、周辺より若干白っぽくなります。	
	
【 クラックが再発する場合 】 練り混ぜたカルヌーヴォを少量取り、クラック部分に塗り付けてください。余分な材料は取り除き、乾燥後、既存の壁との境目を布やすり (#240 程度) でこすってなじませてください。	
汚れが付着した場合	
【 手垢など表面の汚れの場合 】 ・ 消しゴムを使用して、表面の汚れを取り除いてください。  ・ 消しゴムで消えない場合は、布やすり (#180 程度) で軽くこすって汚れを取り除いてください。  ※ こすった部分の表面は、平らになり、周辺より若干白っぽくなります。	【 染み込んだ汚れの場合 】 ・ 重曹水を清潔な布などに湿らせ、叩くようにして汚れを取り除いてください。  ・ それでも取り除けない場合は、布やすり (#180 程度) で軽くこすって汚れを取り除いてください。 ※ こすった部分の表面は、平らになり、周辺より若干白っぽくなります。

せっこうボードや合板の継ぎ目部分が目立つ場合

せっこうボードや合板の継ぎ目周辺を、布やすり(#180 程度)で、円を描くように軽くこすってください。

※ こすった部分の表面は、平らになり、周辺より若干白っぽくなります。



施 工 上 の 注 意

- 気温が 5℃以下および 35℃以上になる場合は、施工を見合わせてください。
- 施工前に必ず試し塗りを行い、パターンの付け方、仕上がり、および、乾燥具合の確認を行ってください。
- 本製品は自然素材です。塗り方、気象条件、製造ロットなどによっては、若干の色差が出る場合があります。
- 色物をご使用の場合、施工環境(気温・湿度・日当たり)や下地の状態、塗り厚の違い等により色ムラや白華現象が起こる可能性がありますので、細心の注意を払って施工してください。(梅雨の時期など湿度が高い場合は色ムラが起きやすく、気温が低い場合は白華現象が起きやすくなります。対策については弊社営業までお問い合わせください。)
- 極端にパターンに凹凸がある場合、また気温・湿度・風などの施工環境によっては、塗膜にひび割れが発生する恐れがあるため注意してください。
- 施工道具を洗浄した洗浄水を河川や側溝に破棄しないでください。



日本プaster株式会社

■ 本社・工場/〒327-0311 栃木県佐野市多田町188-2
TEL:0283-62-6511(代) FAX:0283-62-8851

■ 東京営業所/〒110-0015 東京都台東区東上野3-38-4
TEL:03-3831-3239(代) FAX:03-3835-2048

■ 西日本営業所/〒604-8305 京都府京都市中京区市之町170
TEL:075-406-5031(代) FAX:075-406-5032